これは転生ですか?!

桜寺冬 白黒

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
これは転生ですか？！

【Ｎコード】
Ｎ５０５６ＢＡ

【作者名】
桜寺冬　白黒

【あらすじ】
オタク（主人公）が神（ニート）になったストーリー

「はぁー、暇だー・・・ゲームしてぇー。ｐ●ｐしてぇ。マンガ読みてぇ」
「じゃあ私の仕事半分しますか？」
「いや、なんか忙しいな」
「じゃあ、手を動かしてくださいね」

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

作者の気分とテンションと暇で更新します　応援があると更新が早くなるかも？

ジャンルは仮なので他のジャンルがよければ教えてください

誤字脱字も教えてください

夢から夢へ

「ハンバーガー1つ」
『・・・きて・・・さい・・・・きて・・・・・』
カランカラン
「お客様　お客様は当チェーンで１００万人目のご購入者です　記念にハンバーガー一生分をプレゼントします」
「おぉっ」
「すげーっ」
『起き・・・・くだ・・・・起きて・・・』
「わーい　やったー　やったー」
『起きてください』

「・・・っんー、「起きてください！！！」だよ」
バッコーン
室内に爆音が響き渡る。頭の痛みから次第に目が覚める。
「・・・誰だよ。痛ぇな・・・殴るかフツー」
訂正。まだ目が覚めてないようだ。
ここでオレの家族構成。
４０代の両親。決して若く見えない。
兄弟は兄２人。弟１人。決して女装癖はないし可愛くもない。
ちなみに幼馴染みもいない。
ここで現状。叩き起こされた。
つまり誰かいる。

目の前にオニャノコがいました。Σ（・□・；）
「・・・まだ目が覚めてなかったか？それにしてもひどい夢だ。オレはＭじゃないんだから殴られても嬉しくない。まぁ、目の前の女の子が居たら嬉しいけど・・・あるわけないから、夢だな」

「まだ目が覚めないみたいですね・・・」
そう言って目の前の少女（翼付き）はハンマーを取り出しました。
Σ（・□・；）
「いや、ちょっと待てよ！　いまどこからハンマー出した？てか、起きない人ハンマーで叩いたら起Ｋｉｌｌになくなるだろ！！！」
「やっと起きてくれましたか？では逝きましょう♪」
「ちょっ、ちょっと待ってぇぇぇぇ～～～～～」
クレイジーオニャノコ（翼着き）に連れられてオレは悲鳴だけを部屋に残し何処かに連れ去られた。

ここで質問です。目が覚めたら知らない場所に居たらあなたはどうします？
Ａｎｓｗｅｒ：オレは・・・
「ここはどこだぁ～～～！！！」
錯乱しました。
「てか、なんもねぇーし、壁も見えねぇー！！！！」
「うるさいです！」
ドゥン
絶賛錯乱中のオレの背後から誰かがチョップをしてきた。辞書で。
「っ痛ってぇ～。誰だようるさいだげで殴るかフツー」
ん？　なんかデジャブ。
「やっと静かになりましたか神様」
「ぁぁぁぁぁぁ～～～。お前さっきのクレイジーオニャノコ（翼着き）か！！！」
「うるさいですっ！」
ドゥン
☆絶賛悶絶中☆
「で、ここどこだよ？こんだけ殴られたから夢じゃないんだろうけど・・・」
オレは頭のタンコブ（２段重ね）を擦りながら聞く。

「ここは天界ですよ、神様」
「ん？　誰が神様だよ？　オレはトイレットペーパー（落とし紙）みたいな名前で呼ばれてないぞ」
「？　神のm「あぁぁぁぁ～～言っちゃダメぇ～～っ」そうなんですか？」
「遭難です」
「漢字間違ってますよ？」
いや・・・いろいろ遭難してるんです。
「まあいいです。あなたは今日から神様です」
・・・↑思考中
！！！↑意味に気付く
┳”ン
☆絶賛悶絶中☆
「っえ～、てかどうしてオレっ？」
「善人の中から神の力を操れる者だったからです」
「えっ？オレ（ニートな学生）が善人？幾多のモンスターを狩り、逃げるものを殺し怯えるものを捕まえるオレ（極度のゲーマー）が？」
「はい、私たちの魔法は絶大ですから神の素質がないものには動くことすらできません」
「魔法？　オレが神になれば使える？」
急に食い付きが良くなったって？
だってオタクだもんゲーマーだもん厨二だもん。
「はい、前任の神様も使ってましたから」
「ふーん・・・前任ってどうしてやめたの？」
「前任の神様は元々神になるのを嫌がってたんです」
「てか神も仕事しなきゃダメなんだろ？オレ、働きたくないからなぁ・・・」
「基本的に神の力を使って頂くだけですし、力を使うのは慣れれば呼吸するのと同じくらい楽ですから」

「マジか?!じゃあやる!」
えっ?さっきまでの渋り様はどこいったって?オレの将来の夢”楽をする”だぜ?
「そうですか!では、これを手に当ててください」
そう言って出したのは水晶玉みたいなものだ。てか、どこから出したんだ?
まあ、オレはそれを受け取ろうとした、が・・・
急に目眩がしてふらつき手の甲で弾き落としちまった・・・。
「あっ・・・ゴメン。ふらついたんだ・・・」
「いえ大丈夫です。それより大丈夫ですか?」
「あぁ、大jy・・・」
大丈夫だ、問題ない。そう言おうと思ったが手の甲が光を発しながら熱くなり言えなかった。
「大丈夫ですよ。すぐに治まりますから」
言われた通りすぐに治まったが、オレの中でこいつのことはクレイジーオニャノコ（翼着き）で決定した。

夢から夢へ（後書き）

第1話が予想と違う方向に進んで行き作者は遭難してます。
第2話が終わる頃にはキャラ紹介を入れれたらと思ってます。

神になりました

痛みが治まり手の甲を見るとさっきの水晶みたいなものが埋まってました。
「って、クレイジーオニャノコ（翼着き）！これなんだよ！」
「うるｓ【以下略、いつものパターンです】

「で、これどういうことだよ。なんで落としちまった水晶みたいなものが手の甲に埋まってんだよ？それにこれなんだよ？」
はい、出来るだけ静かに言いましたよ。流石に痛いし・・・。
「それは神力石（じんりょくせき）と言って神の力を与える水晶です」
・・・水晶なんだ。直径６？くらいなのに・・・。
まあ、占い師はもっとでかいやつ使うしな。
「で、何で手が痛くなったんだ？」
「拒否反応です」
・・・拒否反応？
「それって危ないんじゃ・・・」
「はい、体が神の力に耐えきれなければ、神力石（じんりょくせき）に吸収されて世界から消え去ります」
「もしかしてオレ、死んでたかも知れないの？」
「はい、そうです」
ぎぃぃぃぃやぁぁぁぁ～～～！！！！！！
命に関わることを何も言わずにされたぁぁぁ～

・・・大丈夫だ。問題ない。
じゃない、落ち着いた。
これ実は声に出してないんです！
流石にオレも学習するから！
「うるさいっ！！！」

”カ”　ハ”コ”　ト”ス　グチョ

☆絶賛死体中　暫くお待ちください☆

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5056ba/

これは転生ですか?!

2012年1月14日23時51分発行